

“自由遊び”の幼稚園教育課程上の意味について

— 大阪商業大学附属幼稚園の実践から —

小田 富也

(大阪女子短期大学)

I はじめに

“自由遊び”とは、園児達が自分の好きな遊びを各自自由に選んで遊び回る時間を言い、多くの幼稚園が園児の大切な活動時間として位置付けている。自由に遊び回っている子どもの姿を見る限り、小学校の休み時間に相当するようにも見える。

しかし、小学校での休み時間は、教科学習の間に挟まれた休憩時間を指し、教育課程編成の対象から除外されるのが一般的である。一方、幼稚園の“自由遊び”は、小学校の教科学習に相当するほどの学びの時間である。だから、“自由遊び”の時間を幼稚園教育課程編成の対象から除外することはできない。

では、各幼稚園が独自の教育課程を編成しそれに基づく保育計画を作成するに当たり、“自由遊び”をどのように考えればよいのだろうか。

このことを考えるに当たり、幼稚園現場の“自由遊び”をよく観察することから始める。そして、“自由遊び”の中で子ども達がどのような“学び”を成立させているのかを綿密に吟味することとした。

さて、この“自由遊び”での子どもの“学び”の様相を吟味せずに保育計画を作成する時、次のような誤りに陥る危険性がある。

- ・“自由遊び”を小学校の休憩時間のように教育課程の対象から除外してしまう。その結果、「運動遊び」「音楽遊び」「造形遊び」「絵本」「手遊び」等々の設定保育に限って指導計画が思考される。すなわち、小学校の「音楽」「図画工作」「体育」等限られた教科に閉じ込め、その中で内容の安易化と遊び化を考える。このような保育での“学び”は、“大人が遊び化した遊び”による押し付けの“学び”となる。これは、自発的な遊びの中で自ずと内面が揺さぶられ、そこから生じる本来の“学び”とかけ離れたものになる。
- ・子どもの学びは無視され、遊びの大切さだけが無条件で信奉される“自由遊び”絶対主義保育に陥り、幼稚園生活の大半が“自由遊び”で占められる。この場合の保育計画は、この時期にはこんな遊びが行われるという過去の保育経験

から予想される園児の遊びの変化を綴ったものとなる。教師達は、子どもの“学び”を見る力に欠け、子どもがどんな遊びに興味を示すかが関心の中心となる。結局子どもの育ちを見据えた教師の働きかけも希薄になる。

本稿は、“自由遊び”での子どもの活動をつぶさに観察し、その中で子ども達がどのような“学び”を成立させているのかを見極める。その見極めに基づいて“自由遊び”を、幼稚園教育課程にどのように位置付けるかを明らかにすることを目的とする。

観察対象として、大阪商業大学附属幼稚園（3歳児1学級・4歳児2学級・3歳児2学級）の園児達の“自由遊び”を選定した。

大阪商業大学附属幼稚園の1日の流れは概ね次の通りである。（?は日により時刻が異なる）

- ・ 8:30 ~ 9:10 登園 身支度
- ・ 登園 ~ ? “自由遊び”
- ・ ? ~ 11:30 設定保育
- ・ 11:30 ~ 12:?? 昼食
- ・ 昼食 ~ 12:50 “自由遊び”
- ・ 12:50 ~ 降園前に

II “自由遊び”での子どもの学びの姿

“自由遊び”で活動する園児達の外的活動と内的活動を読み取った結果として、学びの姿を次の6つの場面に分けて捉えることとする。

①真似る場

“真似る”は“学び”の第1歩と言われる。先生の真似・友達の良い真似等々と真似をして遊ぶ姿を多く見ることができる。次はその1例である。

- ・運動会で5歳児が鼓隊を行う。大太鼓、中太鼓、小太鼓、シンバルと分担し、テープで流される曲に合わせて奏でる。カラーガードと新体操用リボンを分担する園児もいて、彼らは友達が奏でるリズムに合わせて演じる。

さて、運動会が終わってからの“自由遊び”時の4歳児の姿である。4歳児は5歳児が奏でた鼓隊をやりたい。そこで予め幼稚園の片隅に置いてある楽器類を持ち出し、5歳児を真似て鼓隊遊びを始める。

このような4歳児の姿は毎年観察され、他の幼稚園でも同様の姿が報告されている。

②教え教えられる場

前記の鼓隊遊びの中に、次のような教え教えられる場が見られる。

- ・4歳児が鼓隊の真似遊びをしているところに運動会で経験した5歳児が教えにやってくる。4歳児も不思議なほどに素直に5歳児の指導を受け入れている。

このような真剣な学びの集団が自然に発生するのである。

③先行経験の場（環境へのかかわりの場）

そもそも学習は、先行経験を想起し・反省し・整理することで成立する。見たことも聞いたことも触れたこともない事物を学ぶのは不可能に近い。子ども達は、“自由遊び”の中で今後の学習（小学校進学後の学習も含む）に必要な先行経験を数多くしている。

- ・4歳児の鼓隊遊びは、やがて5歳児での運動会発表の鼓隊の先行経験になる。

④発展的試行の場（試行錯誤の場・挑戦的試行の場）

試行錯誤は、真の学びを成立させるための重要な態度である。試行錯誤の末真理に到達した時、人間は底知れぬ喜びを感じる。“自由遊び”では、この喜びを味っている子ども達と多々出会う。

「私にもやらせて」「僕もやってみる」の意欲的言葉が多く発せられるのもこの場面である。

- ・前記の鼓隊遊びで、5歳児が自分の分担外の楽器に挑戦している姿をよく見る。他の楽器を手にし、いろいろと試してみる。

⑤やり残しをする場

造形遊び等の作業は、完成までの時間に個人差がある。決められた時間内に完成しなかった場合には、次の“自由遊び”の時間に続きをするように指導する。子ども達は、落ち着いて丁寧に作業できる。

⑥個人指導の場

幼児期の子ども達には迅速適切な個人指導が必要な場合が多い。子どもからも先生に相談できる時間でもある。

Ⅲ “自由遊び” の教育課程上の位置付け

右表は、大阪商業大学附属幼稚園の教育課程の中から4歳児の2学期9月・10月の抜粋である。

表中四角で囲んだ各々は、月案・週案等の保育計画を立案する時の視点となる“まとまり”である。計画の立案に際し、中心になるのが、自由遊びである。

Ⅱで述べた“自由遊び”の種々の“学び”がより豊富に成立するように、四角で囲んだそれぞれの“まとまり”の視点と相互の繋がりで立案する。

	9 月	10 月
ね ら い	・生活のリズムを取り戻し、友達と身体を十分に動かしている ・いろいろな遊びを楽しむ。	・戸外でいろいろな活動を存分に楽しみながら友達とのかかわりを深める。
登園してⅢ 登園してⅣ		
自由遊びⅢ 自由遊びⅣ		
水遊びⅡ 当番活動Ⅰ		
運動会 みんなで運動Ⅱ		
園庭（園の畑）の自然Ⅱ		
散歩Ⅱ		
お月さま		
夕涼み会 敬老の日		
おやつ・昼食Ⅱ		
降園前に（絵本・素話・手遊び・反省と次日へ）Ⅱ		
8月誕生会 9月誕生会 10月誕生会		
身体測定Ⅱ 交通安全		
始業式		

Ⅳさいごに

近隣での子どもの群れ遊びの中に“自由遊び”の学びがあった。近隣の教育力が低下した現在、それを補うのが幼稚園での“自由遊び”かもしれない。

“自由遊び”で獲得した“学び”は、その人間の生涯の“学び力”となる。「学びからの逃走」が話題になるが、“自由遊び”で獲得すべき“学び”の不足に起因していると思われる。